

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催の意義を問い直す

KUポートスクエア
横浜キャンパス

神奈川県後援 かながわ大学生涯学習推進協議会共同公開講座

内容

東京 2020 オリンピック・パラリンピック（以下：東京オリパラ）競技大会の開催が決定し、現在、開催に向けて様々な組織・団体が準備に奔走しています。しかし、新国立競技場建設の問題を筆頭として大会会場の選定・新設に関わる問題が山積しているほか、当初の見込みを大きく上回る開催経費への批判もされています。

とかくカネが必要で多くの利権が絡むスポーツイベントとして認識され、国民の辟易した声も聞こえてきます。国民の賛同を得て成功裏に大会を終えるためには、その

プロセスや大会終了後に後世にもたらされるレガシーを明示しなければなりません。そして、それを国民に分かりやすく伝え、大会開催の意義に対して同意を得ることが求められるのではないのでしょうか。

本講演会では、上述のような問題が生じる本質的な要因を探り、問題の中心点である施設に着目します。そして、東京オリパラをめぐる報道のあり方について議論を深め、大会開催の意義を皆さんと考えていきたいと思えます。

※シンポジウムは無料でご参加できます。

定員

150名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

会場

横浜キャンパス ~~3号館3階 3-305~~ ほか

申込期間

3/1(水)~4/26(水)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※お申し込み・お問い合わせは p.70 をご覧ください。

KUポートスクエア

受講料等

9,000円(8,100円)
(1回のみ受講…2,500円)

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※() 内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学学生 (p.4) に適用される料金です。
※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴（一部講座除く）がある方は、受講料を5% 割引引きます。

講座日程

緊急な都合より講師・日程等を変更する場合があります。

【開講時間】 19:00~20:30 全5回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	5/10(水)	玉木 正之	2020年東京オリパラの開催で、日本の「何が」、「どう」変わるべきなのか？ リオデジャネイロ・オリンピックは、日本選手団が史上最多の41個というメダルを獲得して幕を閉じた。が、それは、日本のスポーツに対する認識の向上を表しているのではない。日本人は、明治時代にスポーツを“輸入”して以来、未だにスポーツの本当の価値を知らないまま過ごしている。
2	5/17(水)	広瀬 一郎	「オリンピックのビジネス化」と「オリンピックにおけるビジネス開発」 国策オリンピックと都市開発、オリンピックの商業化の歩み（ロス五輪とスポーツマーケティング）、オリンピックにおけるITビジネス開発、2020年大会に向けたスポーツビジネス展望。
3	5/24(水)	長田 渚左	オリンピック真のレガシー再考と未来 1964年東京大会 日本中の人々の心に深く刻まれた体操選手がいた。ベラ・チャスラフスカ、彼女はその後50年以上にわたり、日本と日本人を愛し続けた一生を送った。五輪が育んだ真の友情と博愛とは何なのかを2020年を前に確認する。
4	5/31(水)	大竹 弘和	東京オリパラ開催に関わる施設整備と大会終了後の活用 新国立競技場建設問題を筆頭に東京オリパラに関連する巨大で豪華な競技場建設にメディアや国民が注目した。しかし、スポーツ実施率（スポーツ人口）は増加の半面、一般人が使用する我が国の公共スポーツ施設数は年々減少しているといった矛盾が起きている。スポーツ施設の有効活用とは、を問う。
5	6/7(水)		〈シンポジウム〉「2020年東京オリパラ後の日本のスポーツ界は、スポーツ振興は？」 パネリストと参加者との意見交換を交えた議論をしていきます。 コーディネーター：長田渚左 パネリスト：玉木正之・広瀬一郎・大竹弘和 【参加費無料】

講師紹介

玉木 正之

スポーツ評論家

『週刊ポスト』『NUMBER』『文藝春秋』等の雑誌、大手新聞などで執筆活動を展開し、肩書きを、日本で最初の「スポーツライター」と名乗る。主な著書は、『スポーツとは何か』『スポーツ・アンソロジー-彼らの奇蹟』『スポーツ解体新書』『スポーツ・体罰-東京オリンピック』『タイガースへの鎮魂歌』。数多くのTV番組にも出演。ラジオではレギュラー・ディスクジョッキーも務める。

広瀬 一郎

東海大学教授

1980年電通入社。トヨタカップを始め国際サッカーイベントのプロデュース多数。2002年サッカーWカップ招致委員会に出身し、広報と企画を担当。2000年に退社し、スポーツ・ナビの立ち上げや経済産業研究所を経て、大学教員に。教鞭を執るがたから、スポーツビジネスのコンサルティンクを行っている。著書「リーグのマネジメント」「スポーツマネジメント入門」、「新しいスポーツマンシップの教科書」など20冊以上。

長田 渚左

ノンフィクション作家

元フジテレビ系FNNスーパータイムスポーツキャスター。日本スポーツ学会代表理事。スポーツ総合誌「スポーツゴジラ」編集長。

大竹 弘和

神奈川大学人間科学部教授

公共政策とスポーツ、スポーツ産業論を専門。公務員、経営コンサルタント会社社長を経て神奈川大学教授に就任。文部科学省「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン策定検討委員会委員」、「総合システム研究所代表取締役」など多数の役職を兼務。著書「スポーツ産業論」「スポーツファシリティマネジメント」、「国民連携や指定管理者・モニタリング評価」に関する書籍多数。